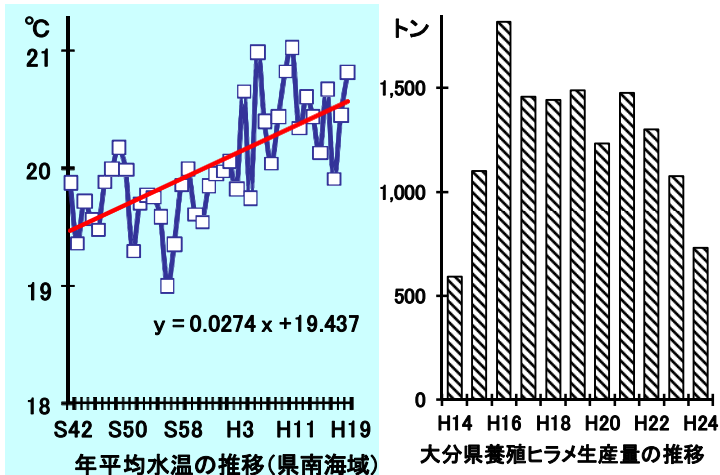


高水温に強いヒラメを探し出せ！ ～高水温耐性ヒラメの選抜育種～

【研究のポイント】

地球温暖化がいわれる中、海水温も上昇傾向にあります。図は県南海域の40年間の年平均水温の推移です。
 大分県は全国でも有数の養殖ヒラメの生産県ですが、海水温の上昇に伴う、疾病の多発や、代謝異常と思われる死亡など、生産性の低下が近年見られ、養殖現場から対策が求められています。
 そこで、水産研究部では関係機関と連携し、高水温に耐性を持つヒラメの系統の探索及び作出に取り組まれました。



【研究の成果】

○親ヒラメの入手
 県内の養殖場において夏の猛暑を生き残ったヒラメや、県内で漁獲された天然のヒラメ、他の研究機関で交配されたヒラメなどを親としました。

○現地養殖試験(平成23～25年度)
 これらの親ヒラメを交配し、平成25年度には、3つの系統(①～③)を作出しました。
 この3つの系統の稚魚を実際に養殖している生産者に飼育してもらい、その生き残りを記録してもらったところ、図2のようになりました。
 いずれも水温が高くなり始める8月下旬～9月上旬に死亡個体が増加する傾向がみられました。
 このような現地試験は平成23年度から実施しており、これまでの結果から、水温が高い時期を生き残ったヒラメを親として交配を繰り返すことで、高水温耐性に優れた系統を作出できていることが分かりました。

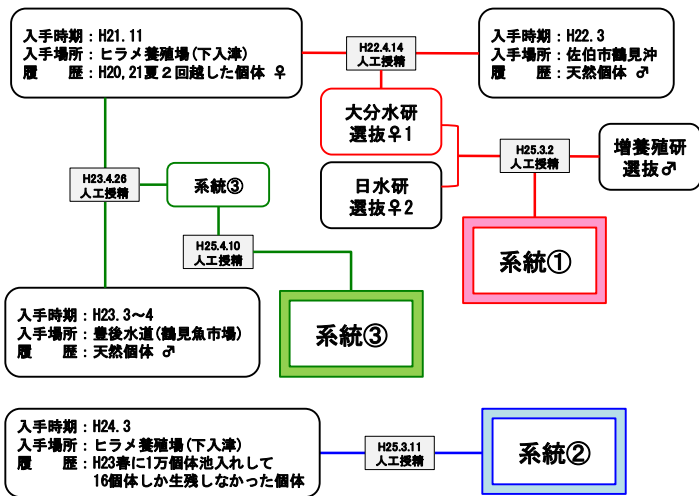


図1 高水温耐性ヒラメ親魚候補群の「家系譜」

○今後の予定
 交配を繰り返すことで、より優れた系統を作出できていることが分かりましたので、さらに複数の系統を作出し、生産者の協力を得ながら、現地養殖試験を実施する予定です。
 育種には長い年月を必要としますが、生産現場は待ってくれません。そのために、良いと思われる系統は、積極的に現場の評価を得て、スピード感を持って、普及につなげていきます。

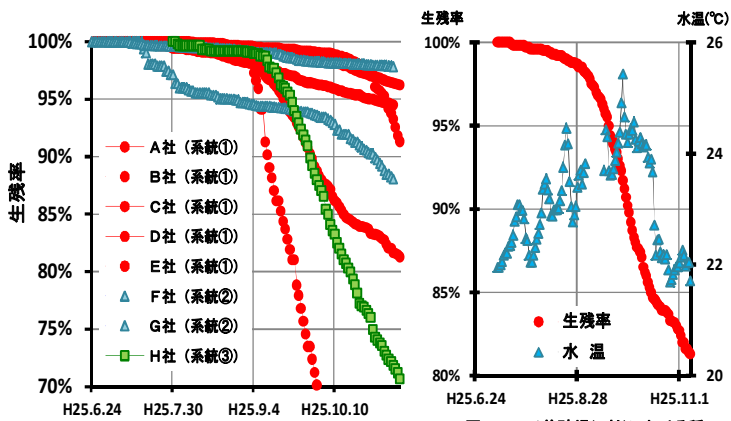


図2 各ヒラメ養殖場における種苗生存率の推移

図3 ヒラメ養殖場(B社)における種苗生存率と水温の推移

【生産者の声】



下入津ヒラメ組合
 管谷 高明 会長

ヒラメを生産をしていく中で、夏の高温によって疾病が引き起こされ、そのことによる生存率、成長率の低下が悩みであり、水産研究部による高水温耐性ヒラメへの取り組みには、生産者として期待しています。
 安心・安全なヒラメ生産には、水産研究部の協力も頂きつつ、ヒラメ組合としても、最大限 協力していきたいと思ひます。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 水産研究部 栽培資源チーム
 TEL：(0972)32-2155
 住所：大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6